



東北大学

2010年1月7日

報道機関 各位

東北大学大学院生命科学研究所

生態適応シンポジウム 2010
「生物多様性オフセットと生態適応」のご案内

東北大学生態適応 GCOE*では、国際生物多様性年の幕開けとなる1月18日(月)東京・国連大学で「生態適応シンポジウム 2010・生物多様性オフセットと生態適応」を開催します。本シンポジウムは10月に名古屋市中区で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議」通称「COP10」に向けて、近年、生物多様性の喪失を防ぐための経済的手法の1つとして注目されている「生物多様性オフセット」をテーマに、生態系保全の課題の共有化を図ることを目的としています。

生物多様性オフセットとは人間活動が生態系に与えた影響を、その場所とは異なる場所に多様性を持った生態系を構築することにより、補償する環境活動のことで、1950年代にアメリカ合衆国・ドイツで代償ミティゲーション・代償手段と呼ばれたものと、ほぼ同等の概念です。他のミティゲーション手法によっても回避できない損失の回復・代償として行われる行為ですが、単なるマネーゲームのように誤解されていることも少なくありません。

海外では開発に伴う生物の生息地(ハビタット)破壊を代償するための仕組みとして、すでに40カ国で「生物多様性オフセット」が制度化されています。しかしながら、本年「COP10」の議長国となる日本では、環境アセスメント制度やその他の野生生物種保全制度において、失われたハビタットに対する代償が義務づけられていないため、自然の消失が続いているといわれています。

これまで日本においては討議される機会が少なかった「生物多様性オフセット」の現状認識と課題について、日本の実情を鑑みると同時に、海外の第一人者による法制化にいたる事例紹介や企業の関わり等のお話を頂きます。後半のパネルディスカッションでは産学、NGOのそれぞれの立場より、今後、生物多様性オフセットが生態系管理や環境保全対策に有効か、制度設計のあるべき姿を探ります。

生物や生態系の持つ力を活かしながら生態系の持つ機能(生態系サービス)を維持していく、生態適応科学の視点から、「生物多様性オフセット」について、あらためて考える機会として、広く一般の方々にご紹介いただきたく、ご案内させていただきます。なお、本シンポジウムに是非、ご参加賜りたく、あわせてお願い申し上げます。

<記>

日時：2010年1月18日(月) 9:30~17:30 (9:00会場)

場所：国際連合大学ウタント国際会議場 (東京都渋谷区神宮前5-53-70)

主催：東北大学 生態適応 GCOE・環境機関コンソーシアム

共催：国際連合大学高等研究所、国際連合大学サステナビリティと平和研究所、

社団法人日本環境アセスメント協会

参加費：無料(要事前登録) 同時通訳あり

* GCOE (Global Center of Excellence) : 世界的に卓越した研究拠点

講演者：

- 田中 章氏 (東京都市大学環境情報学部准教授)
- Matthias Herbert 氏 (ドイツ 自然・ランドスケープ計画部長)
- Michael Crowe氏 (オーストラリア サステナビリティ・環境省 上級政策アナリスト)
- Maree Candish さん (New Forests アジア所長)
- 中静 透 (東北大学大学院生命科学研究科 教授)

ファシリテータ：

- 足立 直樹氏 (株式会社レスポンスアビリティ代表取締役)

パネリスト：

- 田中 章氏 (東京都市大学環境情報学部准教授)
- 中静 透 氏 (東北大学大学院生命科学研究科 教授)
- 市田 則孝氏 (NPO 法人バードライフ・インターナショナル副会長)
- 伴 武彦氏 (株式会社ポリテック・エイディディ環境計画グループ 主任研究員)

(お問い合わせ・取材等のお申し込み先)
〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
東北大学大学院生命科学研究科 生態適応 GCOE
担当：特任教授 竹本 徳子、助教 木島 真志
電話番号：022-795-3637

生態適応シンポジウム 2010

生物多様性オフセットと 生態適応

主催: 東北大学生態適応グローバルCOE「環境機関コンソーシアム」

共催: 国際連合大学高等研究所、国際連合大学サステナビリティと平和研究所、社団法人 日本環境アセスメント協会

近年、生物多様性喪失に対する経済的手法の1つとして、開発に伴う生息地破壊を代償するための仕組みである「生物多様性オフセット」が注目され、海外ではすでに40カ国で制度化されています。一方、「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」のホスト国となる日本では、環境アセスメント制度やその他の野生生物種保全制度において、失われたハビタット(生息地)に対する代償が義務づけられていないため、自然の消失が続いているといわれています。

今回のシンポジウムはCOP10に向けて、日本においてはなかなか討議される場の少ない「生物多様性オフセット」の現状認識と課題について、日本の実情を鑑みると同時に、海外の第一人者による法制化にいたる事例紹介や企業の関わり等のお話を伺います。後半のパネルディスカッションは産学、NGOのそれぞれの立場より、今後、生物多様性オフセットが生態系管理や環境保全対策に有効か、制度設計のあるべき姿を探ります。奮ってご参加ください。

2010年 **1月18** 日(月) 9:30~17:30 (9:00会場)

入場無料(要、事前登録)
言語:日本語・英語(同時通訳付き)

国際連合大学ウタント国際会議場
東京都渋谷区神宮前5-53-70

問い合わせ先: 東北大学「生態適応グローバルCOE」 Tel: 022-795-3637

➡ 9:00 開場

➡ 9:30~9:40

ご挨拶

環境機関コンソーシアム会長 市田 則孝氏
(NPO法人バードライフ・インターナショナル副会長)

➡ 9:40~10:40 基調講演 「代償ミティゲーションから生物多様性オフセットへ：
日本の視点」

東京都市大学環境情報学部准教授 田中 章氏

➡ 10:40~11:40 「ドイツ環境アセスメント法を含むEU各国における
生物多様性オフセット制度」

Mr. Matthias Herbert, the Head of the Department for Nature and Landscape in
Planning and Projects, the Federal Agency for Nature Conservation (Germany)

➡ 11:40~12:20 「オーストラリアの生物多様性オフセットと
新しい国際的な枠組みBBOP」

Mr. Michael Crowe, Department of Sustainability and Environment (Australia)

昼 食

➡ 13:40~14:20 「生物多様性オフセットは生態学的に効果的でありえるか？：
マレーシア、サバ州での取り組み」

Ms. Maree Candish, Director, New Forests Asia Sdn. Bhd. (Malaysia)

➡ 14:20~15:00 「生物多様性オフセット：生態適応への応用の可能性」

東北大学大学院生命科学研究科 教授 中静 透氏

休 憩

➡ 15:30~17:30 パネルディスカッション
「生物多様性保全のためのオフセットを考える」

■ ファシリテータ

株式会社レスポンスアビリティ
代表取締役 足立 直樹氏

■ パネリスト

東京都市大学准教授 田中 章氏
東北大学大学院生命科学研究科教授 中静 透氏
NPO法人バードライフ・インターナショナル副会長 市田 則孝氏
株式会社ポリテック・エイディディ環境計画グループ 主任研究員 伴 武彦氏

➡ 18:00~19:30 懇親会 国連大学レセプションホール(会費 2,000円)

※ プログラム(タイトル講演者等)は一部変更になる場合がございます。ご了承下さい。



本件に関する問い合わせ先

「環境機関コンソーシアム」事務局

東北大学大学院 生命科学研究科
生態適応グローバルCOE支援室

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
TEL: 022-795-3637 / FAX: 022-795-3638
e-mail: eco-gcoe@bureau.tohoku.ac.jp

生物多様性オフセットと 生態適応

2010年 1月18日(月) 9:30~17:30 (9:00開場)

入場無料(要、事前登録)
言語:日本語・英語(同時通訳付き)

国際連合大学ウタント国際会議場
東京都渋谷区神宮前5-53-70

参加申込方法

お申込みをご希望の方は1月15日(金)までに下記のいずれかの方法で事前にご登録ください。

1. ホームページよりご登録ください。 <http://gema.biology.tohoku.ac.jp>
2. 参加申込書に必要事項をご記入の上FAXでお送りください。 FAX : 022-795-3638

生態適応シンポジウム2010 参加申込書

FAX : 022-795-3638

ふりがな 氏名	メールアドレス
住所 〒	電話番号
	FAX番号
勤務先	電話番号

懇親会参加(会費2,000円) 18:00~19:30 国連大学レセプションホール	参 加 ・ 不 参 加
--	-------------



TOHOKU
UNIVERSITY

本件に関する問い合わせ先

「環境機関コンソーシアム」事務局
東北大学大学院 生命科学研究科
生態適応グローバルCOE支援室
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
TEL: 022-795-3637 / FAX: 022-795-3638
e-mail: eco-gcoe@bureau.tohoku.ac.jp